

# 2011年 魔法の筆箱プロジェクト 中間報告

## ～キャッチ ドリーム プロジェクト～

三重大学教育学部附属特別支援学校  
教諭 達 直美

### 1 はじめに

当校は、自閉症、発達障害など知的障害のある生徒が通う特別支援学校です。

生徒の多くは、音声表出で人に思いを伝えられなかったり、字を書くのが苦手だったり、覚えておくのが苦手だったりします。障害の特性を要因として「できない」「難しい」と評価してしまい、生徒の可能性を阻むのではなく、生徒の苦手な部分や困っている部分に支援機器を活用することで生徒の可能性を広げることが、ADL や QOL の質を高め、将来の生活をより豊かにすることができるのではないかと思います。

生徒は障害の軽重に関わらず誰もが、自分の夢や希望をもっています。その思いや意思を伝えるためには、様々な経験をしていくことが大切です。また、生徒にとっての環境因子を整えていくことも必要でしょう。さらに、生徒が、夢や希望をつかみとるためには、環境因子の一つである支援機器を学校だけの活用ではなく、家庭や関係機関との連携により日々の生活に般化していくことが求められています。そのためにも携帯電話や iPad など生活に密着した支援機器の導入が望まれるところです。その結果、自信を持って、自分の夢や希望を語り、つかもうと意欲を持って行動しようとする生徒の変容だけではなく、その活動を通して、教職員や保護者、関係する支援者の意識改革が生まれるのではないかと考えます。魔法の筆箱プロジェクトで、子どもたちが自分の夢をつかむ機会をさらに広げたいと考えています。

### 2 今年度の目的

**障害のある子どもたちの ICT 機器活用の可能性を探る。**

iPad を様々な教育活動で活用し、子どもたちの可能性を探る。

### 3 実践をしている授業について

#### ① 現在実施している授業

日常生活・課題学習・作業学習・総合的な学習の時間・昼休みなど

#### ② 今後の実施が考えられる授業

特別活動・進路・社会生活・現場実習・校外活動など

#### 【中間報告】

・ 中学部・高等部の総合的な学習の時間「チャレンジ：ならう」や主に高等部の学級活動「朝の会」や習熟度別の自立活動「課題学習」などで活用している。

### 4 具体的な実践内容（目的別）

#### ① スケジュール・サポートブックとしての活用

スケジュール・サポートとして活用

- ・ VOIC5 4U ・ ねえきいて ・ たすくスケジュール ・ ドロップトーク
- ・ マップ

スケジュール管理など多様な活用

- ・ キーノート

【状況報告】

・ 個のニーズに応じて、1日の見通しがもてるように「MY スケジュール」スケジュールを家庭との連携で試行中です。

・ 「買い物」「公共交通機関の利用」の校外活動時や校内外の実習でのサポートブックとして活用を試行中です。

・ パワーポイントで朝の会の流れを作成、PCで視覚支援をおこない、生徒がPCの操作をしています。iPadのタッチパネルで操作できればクラスのどの生徒にも役割分担できるのではないかと考えています。ICT機器操作ができるということは、「自分でもやれる」という実感を持てる機会となり、様々な教育活動へ意欲がもてる効果が期待できると思います。

【生徒の様子など】

・ 朝の会の流れを見通すことやPC操作の役割を与えられたことで、他害の多い自閉症の生徒が落ち着き、自分の役割(PC操作)を行うことができつつあります。又、仲間からも一目置かれる存在になり、自尊感情や自己肯定が培われる機会となってきました。

・ コミュニケーションツールとしての活用には家庭との連携が不可欠です。また、コミュニケーションのアプリは簡単に操作できるものが求められています。また壊してしまうのではないかと声もあり機器のプロテクトの工夫が必要です。

② セルフコントロールができる

学習時間の見通しをもつ

- ・ Lotus ・ Timediff

絵や写真で生徒の「お気に入りブック」を作成する。

- ・ Safari ・ Youtube から好きな絵、写真、動画などを自分のフォルダーに入れ込む。

好きな音楽を選曲し「マイベストミュージック」を作成する。

- ・ iTunes ・ piano free ・ pianoDX ・ virtuoso ・ axylophone など

【生徒の様子など】

・ インターネット検索で自分の好きなものを簡単に取り込めるところに関心を持って取り組みました。

・ 普段聞く曲以外にジャズやボサノバなどいろいろな曲をいれて聞かせました。昼休みやざわざと落ち着かないときなどに流すと一瞬静かになり、気分をかえることができます。今後は、自分で好きな曲を選んで「〇〇のベストミュージック」を作成していきたいと思います。

・当初予想した、感情のコントロールができなかったときに iPad がセルフコントロールになるという可能性はあると実感しました。今後、気持ちを落ち着かせるときに自分で机の中から iPad をそと取り出し、自分のお気に入りを開くということを生徒自身ができればといいなあと思います。

### ③ コミュニケーションを支援する

VOICS 4 U・ねえきいて・たすくスケジュール・ドロップトーク・トーキングエイド (試行版)・黒板・ひらがな life・かなトーク・メモ・Noise Level など

#### 【状況報告】

- ・文字が読めない生徒も、文が読めても内容まで理解が難しい生徒にも活用できました。
- ・意志表出にも活用できるし、言葉の習得もできるものです。
- ・トーキングエイド…表出言語も持たない生徒への活用・校外への持ち運びも便利で文字で自分の気持ちが表現できるよう日常の中で幅広く活用できます。
- ・黒板…急な時のメモ機能として活用しました。
- ・かなトーク…表出言語のない生徒へ活用し、自分の名前や友達の名前、生活言語などの学習をおこないました。
- ・ひらがな life…なぞりがきや音声での文字の確認をおこないました。
- ・Noise Level…表出言語・発語の小さい生徒への発声のうながしや歌練習時などに活用しました。
- ・各種アプリで自己選択・自己決定の支援をおこないました。

#### 【生徒の様子】

- ・表出言語のない生徒への活用により、文字と音声がでるため学習への意欲や興味ももててきたように思います。

### ④ ゲームで力をつける

空想どうぶつ・タッチカード・yahoo きっず・SmackTalk・太鼓の達人など

絵カードとその絵の内容を示す言葉カードをマッチングさせるゲームや自分で好きに描けることを楽しみながら取り組みました。ゲームで競争心をもつこともできました。

#### 【生徒の様子】

絵カードあてゲームや各種ゲームは、音や画像を楽しみながら取り組み、興味関心や集中力の向上に活用できました。日頃一つのことに集中できないところがおおく支援を要する場面の多い生徒は、ゲームのアプリを活用する場面では指示も通りやすくなり、集中力も持続しました。保護者もこの状況に関心を持たれ学習への効果に期待をされています。

### ⑤ 親と子のメールでのコミュニケーション

メール

### 【生徒の様子】

・父親と上手くコミュニケーションがとれず関係性が悪くなっていた生徒に直接的なコミュニケーションではなく iPad でメールを通してやりとりをする機会を設けました。今後、保護者と連携しながら定期的に父とのやりとりをすることで、自分の思いが伝えら、精神面での安定に繋がりたいと思います。

### ⑥ 基礎学習として活用

文字・言語の学習

ひらがな Life・ドラキッズ・こええほん・タッチカード・うたえほん・ヤフーキッズ

数・計算の学習

反復足し算・反復九九・金種計算 life・Calculator x・ドラキッズ・ヤフーキッズなど

社会体験・生活体験の学習

flickr albam を活用してデジタルスクラップなどに活用できるかどうか試行中。

社会の情勢に関心をもつ時間を課題学習で実施しています。インターネットやデジカメなどで関心のある記事や写真を自分のフォルダーに保存していきたいと思います。

### ⑦ 余暇活動への活用

折り紙・ki-Ri-e life・インターネットなど

折り紙の折り方を写真でみることができ、わかりやすいものです。家庭などで一人で取り組めるものを探し、余暇の活動が広がることに期待しています。

## 5 今後に向けて

・校内体制の充実…魔法のプロジェクトには、有志3名のプロジェクトチームで取り組んでいます。現在、校内で興味・関心のある人を増やしているところです。今は限定したアプリを実践しているところですが、今後は様々なアプリを購入し、実践事例を増やし、iPad の活用でどのような子どもの姿の変容があったのかをまとめていきたいと思います。

・iPad の支援技術向上…私たち教師側も iPad を使いこなせている状態ではじめていません。私たちの ICT 機器の支援技術を向上させることで さらに教材としての活用の幅が増えると考えています。

・ICT 機器の情報共有…特別支援を必要とする子どもたちに関係する方々と ICT 支援機器の情報を共有することで支援を必要とする子どもたちの生活がより豊かになればと考えます。夏期休業中に、iPad の研修会を2回企画し、市町の小中学校の先生方や関係機関の方に情報提供できる場面を作りました。